

平成17年12月26日

## 2号機主復水器の点検・補修結果について

平成17年12月19日、定格出力で運転中の2号機において、3台ある主復水器\*<sup>1</sup>のうち1台の水室\*<sup>2</sup>（B2）内の導電率\*<sup>3</sup>が上昇する事象が認められました。

当該主復水器内の導電率は、主復水器内への海水の漏れ込みを防止する処置により通常値に復帰しましたが、その後も導電率の上昇が予想されることから、同日午前10時より監視強化\*<sup>4</sup>を図ることといたしました。

しかしながら、その後も導電率の上昇があり、再発が想定されることから、12月20日午後8時30分より出力降下を開始し、当該主復水器を隔離するため、約50万キロワットまで低下させ、その後、準備が整い次第、さらに出力を約35万キロワットまで低下させて、当該主復水器の点検・補修作業を行うことといたしました。

また、点検・補修作業終了後、定格出力に復帰いたします。

なお、これによる外部への放射能の影響はありません。

（12月19日、20日お知らせ済み）

点検の結果、導電率に上昇が認められた水室（B2）の細管1本に海水の漏れ込み箇所が認められたことから、当該細管に閉止栓を取り付けました。

なお、主復水器内の細管の本数は余裕を持って設計されているため、閉止による主復水器の蒸気を冷却する機能に影響はありません。

2号機は、点検・補修終了後、12月25日午後5時より発電機出力の上昇操作を開始しております。

### <参考>

当該事象は、主復水器細管からの僅かな海水の漏れ込みがあることを示しているものですが、水は「復水脱塩装置\*<sup>5</sup>」により塩分が除去された後、原子炉へ送られており、また、海水の混入量は、復水脱塩装置の処理能力よりも十分低いものであることから、直ちに原子炉への影響が生じるものではありません。

以上

\* 1 : 主復水器

タービンを回した蒸気を海水により冷却し水に戻す機器。

\* 2 : 水室

1台の主復水器は2つの水室を有している。

\* 3 : 導電率

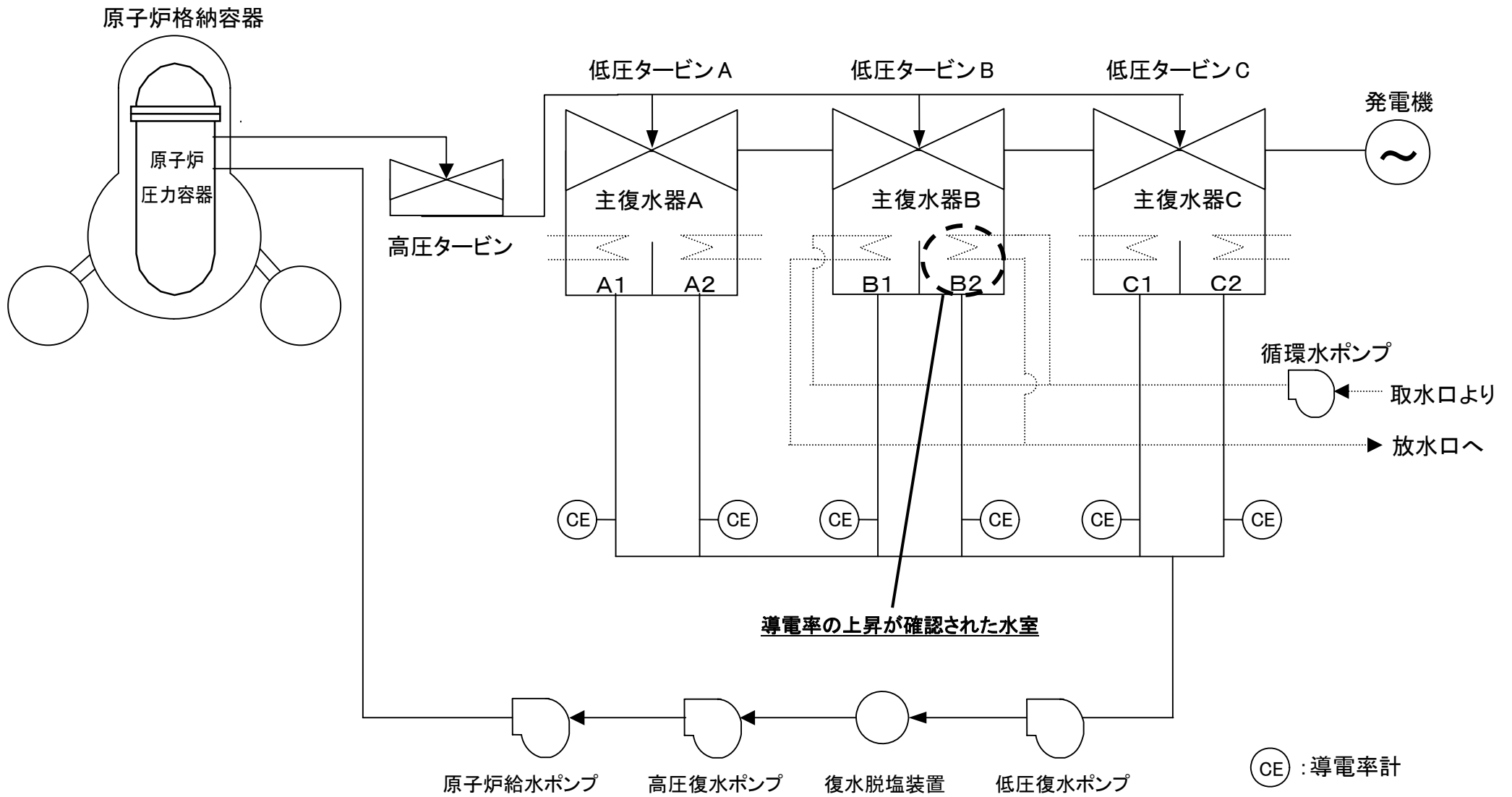
電気の流れやすさの指標で、水分中に塩分等が多いと電気が流れやすくなり、数値が高くなる。主復水器の導電率測定の主目的は、海水の漏れ込みの早期検知。

\* 4 : 監視強化

従来は1日3回、導電率のデータの採取を行っていたが、今後はこれに加え、1時間に1回、導電率データ（記録計）の確認を行うとともに、導電率に有意な上昇が確認された場合には、水質分析と関連パラメータのデータ採取を行う。

\* 5 : 復水脱塩装置

原子炉給水中の不純物を除去する他、万一、主復水器内に海水が漏れ込んだ場合に塩分を除去する装置。



系統概略図